

会議報告

第38回東北家畜衛生協議会検討会および 東北支所主催各部門別検討会報告

IWAMURA Shokichi

動物衛生研究調整監 岩村 祥吉

第38回東北家畜衛生協議会検討会および平成22年度の東北地域病性鑑定各部門別および放牧衛生の検討会を開催したので、概要を報告します。

第38回東北家畜衛生協議会検討会は、東北家畜衛生協議会(会長：動物衛生研究調整監)と動物衛生研究所東北支所の共催により平成22年11月4日、5日の両日、東北各県の家畜衛生担当者を中心に97名が参加し、盛岡市つなぎ温泉のホテル大観で開催されました。今回は4月に宮崎県において発生した口蹄疫をテーマとして取り上げ、動衛研の津田知幸企画管理部長に「口蹄疫の

防疫と疫学」、坂本研一研究管理監(海外病担当)に「口蹄疫の診断について」、そして、宮崎県都城家畜保健衛生所の税田緑所長に「宮崎県における口蹄疫の発生について」の特別講演をいただきました。また、「東北各県における口蹄疫への対応」について各県からの報告と総合討論も活発に行われ、大変有意義な検討会となりました。本協議会検討会は、東北地域の家畜保健衛生所に加え、大学、家畜改良センター、動物検疫所など動物衛生関係者が一堂に会し、泊まり込みで議論や情報交換を行う形で実施しており、参加者からは「他ではできない情報交換の場」との評が毎回寄せられています。



第38回東北家畜衛生協議会検討会

第29回東北病理標本検討会と第19回家畜衛生部門別検討会(「細菌」)は、平成22年9月9日、10日の両日、七戸町商工会会議室および東北支所会議室において開催されました。病理標本検討会では東北各県の病理担当者に加えつばでの病理研修生や支所職員ほか計24名が参加し、参加者が事前に標本

会議報告

を検討した上で討議する形式で、10の症例について標本検討会が行われました。「細菌」では東北各県の細菌担当者、家畜改良センター、支所職員計22名が参加し、畜産草地研究所の石崎宏主任研究員の「育成牛の免疫を低下させる環境要因」、動衛研の芝原友幸主任研究員の「馬増殖性腸症、ホルスタイン成牛におけるフィラメント状細菌による多発性肉芽腫性腸炎、と畜去勢豚における*Actinobacillus pleuropneumoniae* Serotype2による肉芽腫性リンパ節炎」の講演とともに、東北各県からの事例発表がなされ、活発な討論が行われました。

第30回東北地域病性鑑定担当者会議(「ウイルス」、「生化学」)および第6回東北地域放牧衛生担当者会議(「放牧衛生」)は、平成22年10月7日、8日の両日、「生化学」は支所会議室で、また、「ウイルス」と「放牧衛生」は七戸中央公民館で開催されました。参加者は東北各県の家畜保健衛生所、家畜改良センターおよび支所職員などで、「ウイルス」には21名、「生化学」には12名、「放牧衛生」に16名が出席しました。「ウイルス」では人獣感染症研究チームの西藤岳彦チーム長から「動物のインフルエンザ」、国際重要伝

染病研究チームの吉田チーム長から「口蹄疫と採材の仕方」の講演および各県からのウイルス病関連の事例報告がなされました。「生化学」では安全性研究チームの吉岡都主任研究員の「異常プリオン蛋白質の試験管内増幅法とその応用」の講演と生産病研究チームの宮本亨上席研究員の「牛ハプトグロビンの迅速定量法」の実習とともに、各県の事例報告が行われました。「放牧衛生」では北海道支所の畠間真一主任研究員から「牛乳頭腫症の発生状況と疾病防遏に向けた取り組み」、東北支所の寺田裕上席研究員から「アブトラップ改良についての紹介」の講演とともに各県から放牧衛生対策の事例発表があり、それぞれ活発に意見交換がなされました。

平成22年度、東北各県の家畜保健衛生所の技術支援、関係機関相互の情報交換、連携協力を図るため東北支所が企画、運営する協議会および各種検討会等はそれぞれ来年度も継続することを確認して無事終了しました。協議会および検討会等を開催するに当たり、講師はじめ各県運営委員など関係各位の多大なご協力に対し深く感謝申し上げます。



第29回東北病理標本検討会



第30回東北地域病性鑑定担当者会議(「生化学」)